



●ニホンアワサンゴの群落を観察する研究者たち
 ①ニホンアワサンゴ②いすれも
 19日、山口県周防大島町沖、恒成利幸撮影

朝日新聞 2011.9.20 水曜日

海の花束 淡い彩り

正社本報(1念) 福岡柳(博修区)



山口県の周防大島沖にある日本最大級のニホンアワサンゴ群落を19日、研究者約30人が観察した。一帯は国立公園内の保護区「海域公園」の指定に向け、環境省の調査が進む。早ければ

来年度にも瀬戸内海で初めて指定される予定だ。高知県大月町の黒潮生物研究所の岩瀬文人所長(54)は「サンゴの状態は良かった。子どものサンゴが育っていて、海中景観と環境が共に保護されるのが望ましい」と話した。群落は島の南東沖にあり、広さは約1千平方メートル。環境省の本格調査は今年6日に始まった。

朝日新聞デジタルに動画